



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 41 No. 2
April 2016**

毒理学ニュース

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

| | |
|--------------------------------|----|
| 日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第3報） | 11 |
| 第19回日本毒性学会基礎教育講習会日程 | 15 |
| 第43回日本毒性学会学術年会のご案内（第5報） | 16 |
| 第42回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について | 19 |
| 社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い（第2報） | 20 |

その他のお知らせ

| | |
|-------------------------------|----|
| Molecular Chirality Asia 2016 | 21 |
| 第33回日本TDM学会・学術大会 | 21 |
| 日本薬物動態学会第30回WS/第10回SC | 22 |
| 第23回HAB研究機構学術年会 | 22 |

一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

入会案内・変更手続き

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第3報）

2016年の教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する基礎的な知識を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会の二本立てとします。

「第17回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会は、①トピック（SOT報告）、②臓器毒性、③SD育成講座を一日で学習するフレームで5年間開催してまいりましたが、来年より学習フレームを、①トピック（SOT報告）、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーに変更いたします。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、いくつかのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。

1. 日時

2016年7月2日（土）

2. 会場

ウインクあいち 6階展示室
（スクール形式 240席）

3. プログラム（予定）

- 1) SOT2016 報告：Continuing Education Course
の話題をもとに
1-1 瀧 憲二 9:30～10:20
1-2 阿部 正義 10:20～11:10

（休憩 11:10～11:20）

- 2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー：
“皮膚の毒性変化を考える”

- 2-1 非病理学者のための病理学講義 — 皮膚の
構造と毒性変化 —
11:20～12:25
義澤 克彦 先生（関西医科大学）

（昼休憩 12:25～13:25）

- 2-2 皮膚毒性評価に関する最近の話題、評価方法
13:25～14:15
小島 肇 先生（国衛研）

- 2-3 ゲノム情報に基づく重症薬疹の発現リスク
の予測とその臨床的有用性の検証
14:25～15:15
蒔田 泰誠 先生
（理研・統合生命医学研究センター）

（休憩 15:15～15:25）

- 2-4 皮膚刺激と自然免疫の関わり
15:25～16:15
川村 龍吉 先生（山梨大学・医学部）

閉会 16:20

4. 受講申込および受講料

- 1) 申込期間

2016年3月1日（火）～5月20日（金）

- 2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

<https://reg31.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mdkj-phqfp-73d881c3be20f4b293a61edac47fda44>

登録後、5日以内に次項の要領で受講料を納入下さい。

- 3) 納入方法

本号に同封の郵便振替用紙、または郵便局に備え付けの振替用紙に受講者氏名、会員番号（会員の方のみ）、所属、をご記入の上、下記振替口座へお振込み下さい。

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：一般社団法人日本毒性学会

ネットバンキングをご利用の方は事務局までメールで受講者氏名、会員番号（会員の方のみ）、所属、振込日、振込金額をご連絡の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：ゆうちょ銀行
支店：〇一九（ゼロイチキユウ）支店
口座番号：当座 0426831
口座名義：一般社団法人日本毒性学会

| | |
|------------|---------|
| 4) 受講料 | |
| 会員 | 5,000 円 |
| 非会員 | 7,000 円 |
| 認定トキシコロジスト | 3,000 円 |

当日申込

| | |
|------------|----------|
| 会員 | 7,000 円 |
| 非会員 | 10,000 円 |
| 認定トキシコロジスト | 5,000 円 |

* 受講料はお申込みから5日以内にお振込み下さい。

* ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名（会員の方は会員番号）、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

* 領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。学会からの領収書が必要な場合は当日振替払込請求書兼受領証と交換いたします。

* 準備の都合上、できるだけ事前申込をお願いします。

* キャンセルに伴う返金に関しては、セミナー資料事前送付前に限り、対応します。事務局から資料発送後は納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。詳細は別途事務局までお問い合わせください。

問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内
TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
E-mail: jsotjq@jsot.jp

「第19回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によってトキシコロジー全般にわたる理解を深めたいと、10月に開催されます第19回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。3日間をかけて17名の先生方に講義していただきます（15ページ参照）。

尚、本講習会を受講されますと認定試験受験資格のための評点40点が付与されます。また、認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象にもなります。

受講を希望される方は、下記の受講申込方法でお申込み下さい。受講料入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送りします（7月中旬頃）。

1. 日 時

2016年8月4日（木）～6日（土）

* 詳細につきましては「日程（予定）」をご確認下さい。

2. 会 場（予定）

東京大学農学部 1号館

3. 募集人数

150名（先着順）

4. テキスト

「[新版] トキシコロジー」(朝倉書店, 2009年刊)の内容を中心に講義を行います。受講者はあらかじめ書店等で購入することをお勧めします。

正誤表は学会ホームページに掲載されています。

事務局でもテキストの申込みを受け付けております。①氏名②会員番号③送付先住所④電話番号⑤冊数を明記の上、メールまたはFAXでお申込み下さい。

5. 受講申込および受講料

1) 申込期間

2016年5月6日（金）～7月8日（金）

2) 申込方法

日本毒性学会ホームページよりお申込み下さい。登録後、5日以内に次項の要領で受講料を納入下さい。

3) 納入方法

本号に同封の郵便振替用紙、または郵便局に備え付けの振替用紙に受講者氏名、会員番号（会員の方のみ）、所属、をご記入の上、下記振替口座へお振込み下さい。

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：一般社団法人日本毒性学会

ネットバンキングをご利用の方は事務局までメールで受講者氏名、会員番号（会員の方のみ）、所属、振込日、振込金額をご連絡の上、下記銀

行口座へお振込み下さい。

銀行：ゆうちょ銀行
支店：〇一九（ゼロイチキュウ）支店
口座番号：当座 0426831
口座名義：一般社団法人日本毒性学会

4) 受講料

一般会員：25,000円 学生会員：5,000円
非会員：30,000円 学生非会員：8,000円
認定トキシコロジスト：20,000円（2～3日受講）
10,000円（1日受講）

- * 交流会（1日目開催）の費用は受講料に含まれます。
- * 受講料はお申込みから5日以内にお振込み下さい。
- * ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名（会員の方は会員番号）、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。
- * 領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。学会からの領収書が必要な場合は当日振替払込請求書兼受領証と交換いたします。
- * 会場に余裕がある場合に限り当日参加を受け付けますが、できるだけ事前申込をお願いします。
- * キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前送付前に限り、対応します。事務局から資料発送後は納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。

5) その他

昼食は各自ご用意下さい。講義室内での飲食は可能です。

6. その他

受講修了者には受講証明書を発行します。また、学生受講者（大学院生を含む）は出欠を確認したうえで受講認定証を発行いたします。

問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株毎日学術フォーラム内
TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
E-mail: jsotq@jsot.jp

「第19回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュース、または学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規定に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日時

2016年10月2日（日）（9：15～16：30 予定）

2. 会場

昭和大学 旗の台キャンパス（予定）
（東京都品川区旗の台 1-5-8）
* 東急池上線・大井町線
旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2016年7月1日（金）～8月12日（金）（必着）

4. 出願書類

- 1) 願書と受験者確認票
- 2) 写真 2枚（縦3.5cm×横3cm）
（願書と受験者確認票の所定欄に貼付）
- 3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

- ・ 会員歴：出願時にJSOTの会員であること
- ・ 研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」をご覧下さい。出願書類は記録の残るもの（書留、信書便等）でお送り下さい。

出願書類フォームは、学会ホームページおよび次号 Vol. 41, No. 3（6月号）に掲載する予定です。

5. 受験料

30,000円（下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい）

郵便振替口座番号：00150-9-426831
加入者名：一般社団法人日本毒性学会
（通信欄に会員番号を明記下さい）

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局
 認定試験小委員会
 〒100-0003
 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
 パレスサイドビル
 (株)毎日学術フォーラム内
 TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
 E-mail: jsotq@jsot.jp

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2001年、2006年、2011年に認定トキシコロジストに認定された方(認定トキシコロジストNo. 195～210, 326～363, 481～506)は2016年が資格更新の時期となります。更新手続きの詳細は、対象者宛に2016年7月頃に郵送いたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「日本毒性学会認定トキシコロジスト総会」

6月末に名古屋市で開催予定の第43回日本毒性学会学術年会(第1日目)に、認定トキシコロジストならびに名誉トキシコロジストを対象とした認定トキシコロジスト総会を開催いたします。総会には多くの先生方が参加されますので、今後の毒性学の方向性、研究等様々な意見交換の場として有効利用していただければ幸いです。認定トキシコロジスト、名誉トキシコロジストの先生方の積極的なご参加をお待ちしております。

1. 日時(予定)

2016年6月29日(水)
 18:30～20:30(18:00より受付開始)

2. 会場(予定)

キャッスルプラザ 棗の間
<http://www.castle.co.jp/plaza>

3. 式次第

1. 認定トキシコロジスト総会
2. 認定トキシコロジスト懇親会

4. 会費

認定トキシコロジスト:事前3,000円(当日4,000円)
 名誉トキシコロジスト:事前3,000円(当日4,000円)

参加者数により、当日入場を制限させていただくことがございます。事前申込にご協力よろしく願います。

事前申込期間:2016年4月1日(金)～6月15日(水)

5. 申込方法

日本毒性学会事務局(jsotq@jsot.jp)まで電子メールにてお申込み(お名前、日本毒性学会会員番号、認定トキシコロジスト総会参加旨記載)の上、下記振込先までお振込みをお願いいたします。

本号に同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、インターネットバンキング等をご利用ください。

インターネットバンキングにてお振込みの際には、振込人名義を会員番号、フルネーム(個人名)、「DJSOT ソウカイサンカヒ」と記載願います。

例:99999 ドクセイ タロウ DJSOT ソウカイサンカヒ

振込先

〈振替用紙・ゆうちょ銀行から〉

郵便振替口座 : 00150-9-426831
 加入者名 : 一般社団法人日本毒性学会

〈他行から〉

銀行名 : ゆうちょ銀行
 金融機関コード : 9900
 店番 : 019
 預金種目 : 当座
 店名 : 〇一九 店(ゼロイチキョウ店)
 口座番号 : 0426831

問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局
 〒100-0003
 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
 パレスサイドビル
 (株)毎日学術フォーラム内
 TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
 E-mail: jsotq@jsot.jp

第19回日本毒性学会基礎教育講習会日程

| 月 日 | 時 間 | 学 科 目 |
|-------------|----------------------|---|
| 8月4日 (木) | - 9:00 | 受付 |
| | 9:00 - 9:10 | 基礎講習会小委員会 委員長挨拶 オリエンテーション |
| | 9:10 - 10:10 (1:00) | 毒性学の基本概念 |
| | 10:20 - 11:20 (1:00) | 毒性発現機序 |
| | 11:30 - 13:00 (1:30) | 動態・代謝, トキシコキネティクス |
| | 13:55 - 15:25 (1:30) | 臓器毒性・毒性試験 (1) (肝毒性, 腎毒性) |
| | 15:35 - 16:50 (1:15) | 臓器毒性・毒性試験 (2) (消化器毒性, 呼吸器毒性, 皮膚・粘膜毒性) |
| | 17:00 - 18:00 (1:00) | 臓器毒性・毒性試験 (3) (循環器毒性) |
| | 18:00 - 20:00 (2:00) | 交流会 |
| 8月5日 (金) | 9:00 - 10:00 (1:00) | 臓器毒性・毒性試験 (4) (神経行動毒性) |
| | 10:10 - 11:25 (1:15) | 臓器毒性・毒性試験 (5) (血液・造血毒性, 免疫毒性) |
| | 11:35 - 12:35 (1:00) | 臓器毒性・毒性試験 (6) (内分泌毒性, 運動器毒性, 感覚器毒性) |
| | 13:30 - 14:30 (1:00) | 臓器毒性・毒性試験 (7) (遺伝毒性) |
| | 14:40 - 15:40 (1:00) | 臓器毒性・毒性試験 (8) (発がん性) |
| | 15:50 - 16:50 (1:00) | 臓器毒性・毒性試験 (9) (生殖発生毒性) |
| | 17:00 - 18:00 (1:00) | 毒性オミクス・バイオマーカー |
| 8月6日 (土) | 9:00 - 11:00 (2:00) | リスクアセスメント・マネジメント, 環境毒性 (環境汚染物質), 放射性物質, 紫外線, ナノマテリアル |
| | 11:10 - 12:40 (1:30) | 規制毒性試験法, 実験動物及び統計手法 |
| | 13:35 - 15:05 (1:30) | 化学物質の有害作用 (1) (医薬品・化粧品, 食品・食品添加物) |
| | 15:15 - 16:15 (1:00) | 化学物質の有害作用 (2) (農薬, 工業用化学物質, 天然毒性物質, 金属, 臨床中毒) |
| | 16:15 | 受講証明書授与 |

第43回日本毒性学会学術年会のご案内（第5報）

（年会ホームページ：<http://jsot2016.jp/>）

1. 会期

平成28年（2016年）6月29日（水）～7月1日（金）

2. 会場

ウイंकあいち [愛知県産業労働センター]
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL：052-571-6131
<http://www.winc-aichi.jp/>

3. テーマ

「健康増進に貢献する毒性学」

4. 年会長

佐藤 雅彦（愛知学院大学薬学部 教授）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

青木 豊彦（株）サンプラネット）
青木 康展（国立環境研究所）
天野 幸紀（興和株）
石塚真由美（北海道大学）
上野 光一（千葉大学）
小椋 康光（千葉大学）
鍛冶 利幸（東京理科大学）
菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）
北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）
清宮 健一（兵庫医療大学）
熊谷 嘉人（筑波大学）
神野 透人（名城大学）
遠山 千春（筑波大学）
苗代 一郎（医薬品医療機器総合機構）
中川 一平（杏林製薬株）
中村 和希（北里大学）
永沼 章（東北大学）
久田 茂（あすか製薬株）
姫野誠一郎（徳島文理大学）
広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）
堀井 郁夫（ファイザー、昭和大学）
務台 衛（田辺三菱製薬株）
山田 久陽（大正製薬株）
横井 毅（名古屋大学）
吉田 武美（薬剤師認定制度認証機構）
吉田 緑（食品安全委員会）
吉成 浩一（静岡県立大学）

6. 特別企画（予定、敬称略）

- 1) 日本毒性学会 35周年記念特別企画
テーマ：学会の生い立ちと未来展望
日時：2016年6月30日（木）
午前9：00～12：00
- 2) 年会長招待講演
医薬品安全性評価の原点：多様性科学としての
毒性学は創薬の場で何に貢献できるのか？
堀井 郁夫
（ファイザー）
- 3) 特別講演
 - (1) 落谷 孝広
（国立がん研究センター研究所）
 - (2) Dr. Lu Cai
（University of Louisville）
 - (3) Dr. Laurie H. M. Chan
（University of Ottawa）
 - (4) Dr. Patrice Belanger
（Pfizer）
- 4) 教育講演
 - (1) Dr. Serguei Liachenko
（FDA, NCTR）
 - (2) 高野 裕久
（京都大学）
 - (3) 遠山 千春
（筑波大学）
 - (4) Dr. M. George Cherian
（University of Western Ontario）
- 5) シンポジウム（仮題・順不同 21セッション）
 - ・日米毒性学会の交流促進プログラム「肺毒性の最前線」
 - ・日本毒性病理学会合同シンポジウム「腎臓の毒性病理とバイオマーカー」
 - ・日本中毒学会合同シンポジウム「一酸化炭素中毒の最前線：シグナル伝達物質としてのCOと中毒・後遺症の再考察」
 - ・酸化ストレスとシグナル伝達
 - ・医薬品に係わる添加物と剤型革新における安全性評価

- ・微量遺伝毒性物質の食品健康影響評価について
 - ・SEND (非臨床試験電子データ標準化) - その規制動向と実装に向けた企業, CRO, IT ベンダーの取り組み-
 - ・安全性評価におけるイヌ慢性毒性試験とマウス発がん性試験の有効性
 - ・メチル水銀毒性研究の最前線
 - ・ナノマテリアルの実用化に呼応した有害性評価の進捗
 - ・マイクロミニピッグを用いる医薬品の安全性評価
 - ・次世代研究セミナー「新規アプローチによる毒性発現機序解明とバイオマーカー探索」
 - ・エピジェネティック毒性評価に向けたバイオマーカー探索とその関連研究の動向
 - ・バイオ医薬の品質および不純物管理に係わる安全性評価：現状と未来
 - ・オルガネラトキシコロジー
 - ・UGT 研究の最前線～食品から医薬品, 動物からヒトまで～
 - ・適応拡大する毒性オミクス
 - ・遺伝毒性試験で発がん性を予測する
 - ・カドミウム研究の新たな展開 - 疫学から分子機構まで-
 - ・再生医療・細胞治療の品質・安全性評価のあり方 - 患者様のリスク最小化に向けたアプローチ-
 - ・心循環器毒性 - 非臨床から臨床へ, 臨床からのフィードバック
- 6) ワークショップ (仮題・順不同 6 セッション)
- ・ICH S1 がん原性試験ガイドライン改定に係る前向き調査におけるがん原性評価文書 (CAD) の中間評価と薬理作用及び標的臓器からみた発がん
 - ・認定トキシコロジスト制度 - これまで, 現在, これから-
 - ・医薬品リスクのコミュニケーション
 - ・ネオニコチノイド研究とリスク評価の最前線～ミツバチからヒトの社会まで～
 - ・医薬品開発における探索安全性評価の戦略について
 - ・経済産業省プロジェクト 新規反復投与毒性試験代替法の開発: ARCH-Tox
- 7) 就職活動支援プログラム
安全性研究者の活躍の場の広がり
- 8) 第 14 回市民公開セミナー
テーマ: 食品とくすり
～正しい摂り方・飲み合わせ～

日 時: 2016 年 7 月 2 日 (土)
午後 1:30 ~ 4:30
場 所: ウィンクあいち

7. 一般演題

1) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては, 発表と討論の時間を合わせて 10 ~ 15 分程度を予定しています。詳細は, 演題申込数を考慮の上できるだけ早い時期にお知らせいたしますので, ホームページなどで随時ご確認下さい。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は, 毎日貼替えでポスター展示を行い, 途中で質疑応答時間を設けます。

2) 優秀研究発表賞

2016 年 3 月 31 日時点で 35 歳以下の方を対象とします。

応募者はポスター発表に加え, 別会場で口頭発表と質疑応答を行っていただきます。受賞者の発表は, 2016 年 6 月 30 日 (木) に行い, 授賞式は, 2016 年 7 月 1 日 (金) に学会会場で行います。受賞者には, 賞状と副賞を授与します。

8. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日:

2016 年 4 月 25 日 (月) 午後 1:00
(4 月 15 日から延長しました。)

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」, 関連学会会員, 非会員の参加費と懇親会費は「課税 (消費税込)」となります。

| | 事前登録 | 当日受付 |
|-------------|----------|----------|
| 会員 (評議員) *1 | 11,000 円 | 13,000 円 |
| 会員 (一般) | 11,000 円 | 13,000 円 |
| 学生会員 | 3,000 円 | 4,000 円 |
| 関連学会会員 *2 | 12,000 円 | 14,000 円 |
| 非会員 | 14,000 円 | 16,000 円 |
| 懇親会 (一般) | 9,000 円 | 11,000 円 |
| 懇親会 (学生) | 4,000 円 | 5,000 円 |

*1 評議員の方は, 会員 (評議員) のカテゴリーを選択してください。

日本毒性学会評議員一覧ページ:

<http://www.jsot.jp/list01/councilor.html>

* 2 は次の学会会員の方です。(順不同)

共催：

日本中毒学会
日本免疫毒性学会
日本毒性病理学会

協賛：

日本薬学会
日本薬理学会
日本獣医学会
日本衛生学会
日本薬物動態学会
日本環境変異原学会
日本実験動物学会
日本製薬医学会
日本産業衛生学会
環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会)
日本医薬品情報学会

2) お支払い方法

- ・クレジットカード
- ・コンビニエンスストア

※ 決済等の詳細については、年会ホームページ
をご覧ください。

9. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2016年6月30日(木) 午後6:30より(予定)

会場：名古屋観光ホテル

〒460-8608 名古屋市中区錦一丁目 19-30

TEL：052-231-7711 (代)

URL：<http://www.nagoyakankohotel.co.jp/>

10. 展示・ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー、広告掲載、展示
出展を募集します。詳細はホームページ ([http://
jsot2016.jp/contents/company.html](http://jsot2016.jp/contents/company.html)) に掲載して
おりますのでご覧下さい。

11. 年会事務局

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町 1-100

愛知学院大学薬学部 衛生薬学講座

事務局長：李 辰竜

事務局次長：徳本 真紀

TEL：052-757-6791 FAX：052-757-6799

E-mail：secretariat@jsot2016.jp

第 42 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 42 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

| | |
|----------|----------------|
| 振込先：口座番号 | 00150-9-426831 |
| 加入者名 | 一般社団法人日本毒性学会 |
| 要旨集価格 | 3,500 円 （1 部） |

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号

④第 42 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：一般社団法人日本毒性学会 事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

㈱毎日学術フォーラム

TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555

E-mail：jsothq@jsot.jp

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い（第2報）

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第4章に定められておりますように「社員総会」を、以下の要領で学術年会期間中に開催いたします。ご承知のとおり、本学会は2014年（平成26年）5月1日に一般社団法人となり、重要な案件は社員総会で決定されます。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。なお、本システムの詳細は、2016年4月中旬に、皆さまにメールにてご連絡させていただく予定です。

記

2016年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会
日 時：2016年6月30日（木）13時15分から15時15分（予定）
場 所：ウイंकあいち（愛知県産業労働センター）大ホール（第1会場）
議 案：1. 2015年度事業報告および収支決算
2. 2016年度事業計画および収支予算
3. その他

以上

社員総会の決議には、定款第24条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の「過半数」を有する社員の出席が必要です。定足数に満たない場合は社員総会として成立しなくなり、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会に欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状の提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年 4月
一般社団法人日本毒性学会
理事長 眞鍋 淳

その他のお知らせ

Molecular Chirality Asia 2016
 – Chiral Science and Technology: From Asia to the World –

主催 MCRO
 (Molecular Chirality Research Organization)

共催 日本薬学会
 日本化学会
 日本分析化学会
 日本農芸化学会
 日本薬物動態学会
 大阪大学産業科学研究所

協賛 日本毒性学会, 有機合成化学協会, 高分子学会

日時 2016年4月20日(水)～4月22日(金)

会場 ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター
 (大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪)

交通 JR「大阪駅」(アトリウム広場)…徒歩3分
 地下鉄御堂筋線「梅田駅」…徒歩3分
 阪急電鉄「梅田駅」…徒歩3分

招待講演者

Shunai Che (Shanghai Jiao Tong University)
 Chien-Tien Chen (National Tsing Hua University)
 Jonathan Clayden (The University of Manchester)
 Li Deng (Brandeis University)
 Kuiling Ding (Shanghai Institute of Organic Chemistry)
 Makoto Fujita (The University of Tokyo)
 Liu-Zhu Gong (University of Science and Technology of China)
 Amir H. Hoveyda (Boston College)
 Sylvain Jugé (University of Burgundy)
 Minghua Liu (Chinese Academy of Sciences)
 Yixin Lu (National University of Singapore)
 Masakatsu Shibasaki (Institute of Microbial Chemistry)
 Dean Toste (University of California, Berkeley)
 Xinhua Wan (Peking University)
 Zong-Quan Wu (Hefei University of Technology)
 Afang Zhang (Shanghai University)

発表形式 口頭発表, ポスター発表

発表申込・予稿原稿締切 2016年1月29日(金)

参加登録予約申込締切 2016年2月29日(月)

予約参加登録費

一般 25,000円
 学生 6,000円
 2016年3月1日(火)以降
 一般 30,000円
 学生 8,000円

懇親会 2日目の講演終了後に開催。
 会費 10,000円

参加・発表申込方法 詳細は下記HPをご覧ください。

申込・問合せ先

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1
 MC ASIA 2016 実行委員会
 笹井宏明・川端猛夫

電話 06-6879-8465
 FAX 06-6879-8469
 E-mail: MCASIA2016@sanken.osaka-u.ac.jp
 HP: <https://www.netroom.sanken.osaka-u.ac.jp/MCASIA2016/index.html>

第33回日本TDM学会・学術大会のご案内
THE 33RD ANNUAL MEETING FOR THE
JAPANESE SOCIETY OF THERAPEUTIC
DRUG MONITORING

会期 2016年5月28日(土)・5月29日(日)
会場 栃木県総合文化センター(宇都宮市)
大会長 藤村 昭夫(自治医科大学 臨床薬理学 教授)
学会テーマ 「TDMの活用拡大に向けて」

演題募集期間

受け付け開始日: 2016年1月6日(水)
 締切日: 2016年2月29日(月)
 申込先: <http://www.mtoyoyou.jp/tdm33/>

参加費・懇親会費

会員・非会員

| | 参加費 | 懇親会費 | 合計 |
|------|--------|--------|---------|
| 事前登録 | 8,000円 | 5,000円 | 13,000円 |
| 当日登録 | 9,000円 | 6,000円 | 15,000円 |

学 生

| | 参加費 | 懇親会費 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|
| 事前登録 | 2,000円 | 5,000円 | 7,000円 |
| 当日登録 | 3,000円 | 6,000円 | 9,000円 |

懇親会 2016年5月28日(土) 18:00～(予定)

会場 宇都宮東武ホテルグランデ 4F「松柏」

問い合わせ先

事務局

自治医科大学医学部薬理学講座臨床薬理学部門
 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
 TEL: 0285-58-7388
 FAX: 0285-44-7562
 E-mail: tdm2016@jichi.ac.jp

運営事務局

株式会社メディカル東友コンベンション事業部
 〒243-0012 神奈川県厚木市幸町9-10
 第2ファームビル2F
 TEL: 046-220-1705
 FAX: 046-220-1706
 E-mail: tdm33@mtoyoyou.jp

日本薬物動態学会第30回ワークショップ/ 第10回ショートコース開催のお知らせ

この度、日本薬物動態学会第30回ワークショップならびに第10回ショートコースを下記日程にて開催する運びとなりました。皆様のご参加を心からお待ちしております。

大会 HP : <http://www.jssx.org/workshop/2016/>

【日本薬物動態学会第30回ワークショップ】

テーマ 「外へ向かう薬物動態～臨床、疾患、新しい萌芽技術～」

会期 2016年5月12日(木) 14:50～18:10
13日(金) 9:00～18:05

会場 千里ライフサイエンスセンター
(大阪府豊中市千里東1-4-2)

ワークショップ代表世話人

矢吹 昌司(大日本住友製薬株式会社 前臨床研究所)

【日本薬物動態学会第10回ショートコース】

テーマ 「臨床薬物動態予測を支える最新技術」

会期 2016年5月12日(木) 9:55～14:30

会場 千里ライフサイエンスセンター
(大阪府豊中市千里東1-4-2)

ショートコース実行委員長

千葉 雅人(大鵬薬品工業株式会社 薬物動態研究所)

1. プログラム(予定) *敬称略

(1) ワークショップ

(基調講演)

- ・5月12日(木) 15:00～15:50
非臨床データに基づく臨床試験計画
北里大学病院 臨床試験センター
熊谷 雄治
- ・5月13日(金) 9:00～9:45
精神科臨床と薬物動態：現状と課題
弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座
古郡 規雄
- ・5月13日(金) 13:30～14:15
抗がん薬の臨床薬理と診療の接点
名古屋大学医学部附属病院 化学療法部
安藤 雄一

(2) ショートコース

製薬企業、大学、ライフサイエンス企業から合計8演題

2. 参加費(当日)

- (1) ワークショップ：会 員 23,000円
非会員 33,000円
学 生 5,000円
- (2) ショートコース：会 員 17,000円
非会員 25,000円
学 生 3,000円

- (3) 両方に参加：会 員 36,000円
非会員 50,000円
学 生 8,000円

*両方に参加される方には割引がございます。また学生会員は先着50名まで無料となります。

第23回HAB研究機構学術年会 「肝障害を多面的に捉える—分子,細胞, 免疫,動物,臨床—」

学術年会長 菅沼 彰純(エーザイ株式会社)

日時 2016年5月26日(木)～28日(土)

会場 つくば産業技術総合研究所 共用講堂

主催 特定非営利活動法人HAB研究機構
(<http://www.hab.or.jp>)

後援 一般社団法人日本毒性学会

招待講演Ⅰ

薬物性肝障害—薬物代謝,免疫,炎症との関係—
横井 毅(名古屋大学大学院)

招待講演Ⅱ

薬物性肝障害の実態
滝川 一(帝京大学医学部)

招待講演Ⅲ

How do reactive metabolites lead to an immune response
that can result in an idiosyncratic drug reaction?
Jack Uetrecht (Univ. of Toronto)

招待講演Ⅳ

エクソソーム研究がもたらす未来の再生医療像とは
落谷 孝広(国立がん研究センター)

シンポジウムⅠ

「臨床肝毒性の予測・評価法研究の最前線-1」
細道 一善(金沢大学)
平沢 真(第一三共株式会社)
山浦 優(アステラス製薬株式会社)

シンポジウムⅡ

「臨床肝毒性の予測・評価法研究の最前線-2」
竹下 潤一(産業技術総合研究所)
長谷川 洵(田辺三菱製薬株式会社)
Sharin Roth (Otsuka, USA)

シンポジウムⅢ

「In vitro 試験系による肝毒性の予測・評価法研究」
鈴木 淳史(九州大学生体防御医学研究所)
酒井 康行(東京大学生産技術研究所)
松崎 典弥(大阪大学大学院)
関根 秀一(千葉大学大学院)
石田 誠一(国立医薬品食品衛生研究所)

シンポジウムⅣ

「毒性を評価するためのヒト化動物」
香月 康宏(鳥取大学大学院)
小林カオル(千葉大学大学院)

立野 知世 (株式会社フェニックスバイオ)
成富 洋一 (アステラス製薬株式会社)
大西 保行 (インビボサイエンス株式会社)
山崎 浩史 (昭和薬科大学)

■ 市民公開シンポジウム「健康な腸寿のすすめ」

佐藤 誠 (筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構)
柳沢 正史 (筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構)
井上 雄一 (東京医科大学 / 睡眠総合ケアクリニック代々木)

■ ランチョンセミナー & プレゼンテーション

- ・年会1日目の昼食時には、オリエンタル酵母株式会社主催のランチョンセミナーを開催予定です。
- ・年会2日目の昼食時には、細胞工学分野および薬物動態分野研究所によるランチョンプレゼンテーションを開催します。日頃の研究成果や他分野への希望を相互に議論できる場となることを祈念して企画をすすめております。多くの皆様方の積極的なご参加をお待ちしております。

※詳細はホームページ (<http://www.hab.or.jp>) にてご確認ください。

一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程

平成 27 年 2 月 17 日制定

第 1 条

設置：一般社団法人日本毒性学会（以下、日本毒性学会）は、一般社団法人 日本化学工業協会（以下、日化協）との覚書に基づき、日化協が日本毒性学会内に設置する日化協 LRI 賞選考委員会において同賞の受賞候補者の選考をおこない、日化協は受賞者を最終決定する。

第 2 条

受賞候補者の対象：化学物質が人の健康や環境に与える影響について優れた研究業績をあげた本会会員を受賞候補者とする。

第 3 条

候補者の資格：現に 5 年以上継続して日本毒性学会（旧日本トキシコロジー学会）の会員であり、受賞年度の 4 月 1 日に満 50 歳以下であること。

第 4 条

表彰：日本毒性学会から日化協への推薦は毎年 1 名とする。受賞者には、日化協から賞状および副賞が授与される。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の社員総会時に行う。

第 5 条

候補者の推薦：日本毒性学会評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、授賞候補者に関する所定書類を日本毒性学会理事長（事務局宛）に当該年度の 12 月 31 日までに提出する。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2,000 字以内）
3. 日化協 LRI 賞の対象となる代表論文 5 編（原則として原著論文。ただし、本賞と関連性の高い総説あるいは著書があれば 1 編まで代替可）とその PDF ファイル、それぞれの概要（1 編につき 400 字程度）、全業績目録（原著論文、総説、著書）、学会等での過去の受賞歴（賞名、受賞課題名と受賞年度）、過去 5 年間に日本毒性学会（旧日本トキシコロジー学会）学術年会で発表した演題リスト（シンポジウムを含む）、およびこれまでに得た外部競争資金リスト（科研費、民間の助成金等の課題名と金額等）。なお、論文の PDF ファイルは ZIP ファイルにまとめて提出する。

第 6 条

選考：

1. 日化協 LRI 賞の選考は、学術広報委員会内に設けられた、化学工業会関係者（化学工業の業界活動に従事する者および化学工業加盟会社に勤務する者）を除く委員からなる当該賞選考小委員会が行う。
2. 選考小委員会委員長は理事長と学術広報委員会委員長が協議の上指名し、委員は学術広報委員会委員長と小委員会委員長が協議の上、指名する。委員長および委員の任期は 1 年とし、再任をさまたげない。
3. 候補者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する者および推薦者はその年度の選考小委員会委員長および選考委員にはならないものとする。
4. 選考小委員会は受賞候補者を 1 名選定し、当該賞選考小委員会委員長は、該当なしの場合も含めて学術広報委員会委員長および理事長に報告する。本選考結果を日化協に報告する。
5. 受賞者は受賞年の 8 月に開催予定の日化協 LRI 研究報告会にて記念講演演者として招待されることを候補者に伝えることとする。
6. 選考方法等に関する申し合わせは別途定める。

第 7 条

選考基準：

1. The Journal of Toxicological Sciences を含めた、国内外の毒性分野に関連する学術英文誌に発表した研究内容から選考する。
2. 「化学物質がヒトの健康や環境に与える影響」の評価、化学物質（医薬品、農薬等も含む）の毒性発現の分子メカニズム解明、新しい評価法の開発等の中から、新規性、独創性、実現可能性（完成度）、実用化後のインパクト等を考慮して選考を行う。
3. 新規評価法に関しては、ハイスループット、動物実験の 3R（Replacement, Reduction, Refinement）も考慮する。

付 則

平成 27 年 2 月 17 日制定の本規程は同日から施行する。

一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

平成 18 年 1 月 13 日制定

平成 24 年 1 月 1 日改定

平成 28 年 1 月 1 日改定

本基本方針は、一般社団法人日本毒性学会（以下本会という）が、会員の個人情報及び個人番号その他の特定個人情報（以下「特定個人情報等」という。）を取り扱うにあたり、個人情報及び特定個人情報等に関して適用される法令、ガイドラインその他の規範を遵守し、適正に管理・利用、保護するための事項を定めるものである。

1. 利用目的の特定

会員より取得する個人情報は、本会の学術研究に関する事業推進用途に供することを目的とし、これ以外の目的には原則非公開とする。また、特定個人情報等については、本会が個人番号利用事務等を外部に委託することにより、本会においては直接管理しないものとする。

2. 適正な取得、正確性の確保

個人情報の取得は、原則として会員の自己申告に基づき、正確性、最新性の確保に努める。事務局はこれら情報に基づき定期的に最新情報に更新する。

3. 安全管理措置、従業者・委託先の監督

会員の個人情報を取り扱う部門においては、アクセスできる職員を必要最小限度とし、内部統制に努める。1. の目的において個人情報を外部委託業者に提供する場合は、守秘業務契約を結ぶ等、必要な措置を講じ、適切な管理・監督を行う。

また、個人番号利用事務等については、外部に委託することにより、当該委託において取り扱う特定個人情報等の安全管理が図られるよう、当該委託を受けた者（以下「委託先」という。）に対する必要かつ適切な監督を行ない、特定個人情報等の漏えい、滅失又は毀損を防止するとともに特定個人情報等を適切に管理するために、委託先の責任の明確化、委託先での漏えい等の事故を防止するための対策等の安全管理措置を講じる。

4. 利用停止、請求等の処理

会員からの個人情報の訂正、利用停止の連絡、など求めには適切かつ迅速に対応する。

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和 51 年 4 月 1 日制定
平成 17 年 8 月 1 日改定
平成 24 年 10 月 1 日改定
平成 26 年 7 月 1 日改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり 3 頁以内。公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。Review は頁数に制限を設けないが, Minireview は刷り上がり 3 頁以内とする。
- (4) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌の Special Issue として発行することができる (原則として 50 ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4 ファイルに上下左右に 2 cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり 1 頁の文字数がスペースを含めて約 4,700 字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。
- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]。著者が 3 名以上の場合には筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

- (10) Supplemental Data: 一部のデータ (Method の詳細, 追加データ, DNA マイクロアレイ解析の詳細結果など) を Supplemental Data として投稿論文に添付することができる。Supplemental Data はオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第 1 頁 (表題ページ) に下記の中から該当するカテゴリー (5 つ以内) を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部への許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

| | 掲載料（円／頁） | カラー写真 ^b （円／頁） |
|------------------|---------------------|--------------------------|
| Original Article | 6,000 | 40,000 |
| Letter | 12,000 ^a | 40,000 |
| Special Issue | 20,000 | 40,000 |
| 招待総説 | 無料 | 20,000 |

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称:Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイト公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter : 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータのに不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report : 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview : 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合には筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は「採用取り消し」とする。

| 論文種 | 掲載料（消費税別） | | | | |
|-------------------|---------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| | 基本料 （円／論文） | 単語 ^a （円／単語） | 図 ^b （円／図） | 表 ^b （円／表） | 引用文献 ^b （円／文献） |
| Original Article | 20,000 | 4 | 2,500 | 3,000 | 150 |
| Letter | 30,000 | 5 | 2,500 | 3,000 | 150 |
| Toxicomics Report | 30,000 | 6 | 2,500 | 3,000 | 150 |
| Review | 30,000 | 5 | 2,500 | 3,000 | 150 |
| Minireview | 40,000 | 5 | 2,500 | 3,000 | 150 |

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion），図表の説明，および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語，図，表，引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 24 年 1 月 1 日改定
平成 15 年 7 月 19 日改定 平成 26 年 5 月 1 日改定
平成 19 年 1 月 16 日改定 平成 26 年 6 月 17 日改定
平成 21 年 7 月 5 日改定 平成 27 年 2 月 23 日改定
平成 23 年 1 月 14 日改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- 書類審査基準は次の通りとする。
 - 出願時に JSOT の会員であること。
 - 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。
毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

(ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。

(ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

(4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。

(5) 受験料は 3 万円とする。

(6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。
- JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 27 年 2 月 23 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

| 種別 | 評点項目 | 参加 | 発表 ¹⁾ |
|------|---|-----------------|------------------|
| 論文 | 毒性学関連論文 ²⁾ | | 10 (5) / 編 |
| 学会活動 | JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会 | 10 / 回 5 / 回 | 10 (5) / 回 |
| 講習会等 | 基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾ | 40 / 回 5 / 回 | |

1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする。

2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会

4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

| | |
|--------------------|---------------------|
| 平成 12 年 6 月 29 日制定 | 平成 24 年 7 月 5 日改定 |
| 平成 15 年 7 月 19 日改定 | 平成 24 年 12 月 12 日改定 |
| 平成 19 年 1 月 16 日改定 | 平成 26 年 5 月 1 日改定 |
| 平成 21 年 7 月 5 日改定 | 平成 26 年 6 月 17 日改定 |
| 平成 23 年 1 月 14 日改定 | 平成 27 年 2 月 23 日改定 |
| 平成 24 年 1 月 1 日改定 | |

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - (4) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
10. 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
11. 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評 点 基 準

| カテゴリー | 評 点 項 目 | 評 点 | 上限 (5 年間) |
|-------|---|--------|-----------|
| I | 認定試験の問題作成 | 20 / 回 | 80 |
| II | 学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表 | 5 / 回 | 25 |
| III | JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ (講師を含む) | 5 / 回 | 25 |
| IV | 毒性学関連論文 ³⁾ | 5 / 編 | 25 |

¹⁾ IUTOX 定期総会 (ICT), ASIATOX 定期総会, SOT 年会, EUROTOX 年会, 日本安全性薬理研究会, 日本衛生学会, 日本環境変異原学会, 日本産業衛生学会, 日本獣医学会, 日本実験動物学会, 日本製薬医学会, 日本先天異常学会, 日本中毒学会, 日本毒性病理学会, 日本内分泌攪乱化学物質学会, 日本免疫毒性学会, 日本薬学会, 日本薬物動態学会, 日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

入 会 案 内

1. 本会に入会を希望される方は、「一般社団法人日本毒性学会定款」の内容を了承の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
申し込みにあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。
評議員については、学会ホームページ掲載の「評議員一覧」をご覧ください。評議員の会員番号は評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 理事長による入会の承認(定款第10条参照)が得られた後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は5月1日から4月30日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年度の機関紙開始号であるNo.3からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。

| | |
|----------------------------|-----------|
| 一般会員 | 7,000 円 |
| (ただし定款第16条に定めた評議員は10,000円) | |
| 学生会員 | 3,000 円 |
| 賛助会員 | 100,000 円 |

(1.0口)以上(0.2口単位で増やすことができる)
*本年度入会希望の方は、4月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lfes8mjqt9/g7DahB/login.html>)へログインし、手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lfes8mjqt9/g7DahB/login.html>)へログインし、手続きを行って下さい。

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 塚田 裕三 | 石川 栄世 | 今道 友則 | 堀口 俊一 |
| 亀山 勉 | 福田 英臣 | 柳田 知司 | 池田 正之 |
| 加藤 隆一 | 白須 泰彦 | 黒岩 幸雄 | 井村 伸正 |
| 佐藤 哲男 | 林 裕造 | 渡辺 民朗 | 高橋 道人 |
| 榎本 眞 | 小野寺 威 | 遠藤 仁 | 菅野 盛夫 |
| 黒川 雄二 | 鎌滝 哲也 | 赤堀 文昭 | 土井 邦雄 |
| 長尾 拓 | 福島 昭治 | | |

[功労会員]

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 高仲 正 | 前川 昭彦 | 佐藤 温重 | 上野 芳夫 |
| 安田 峯生 | 菊池 康基 | 田中 悟 | 大沢 基保 |
| 今井 清 | 降矢 強 | 玄番 宗一 | 松澤 利明 |
| 唐木 英明 | 仮家 公夫 | 暮部 勝 | 津田 修治 |
| 野村 護 | 牧 栄二 | 堀井 郁夫 | 大野 泰雄 |
| 山添 康 | 吉田 武美 | 上野 光一 | 三森 国敏 |

[役員] (2014～2015年度)

| | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 理事長 | 眞鍋 淳 | 天野 幸紀 | 上野 光一 |
| 理事 | 青木 豊彦 | 小野寺博志 | 菅野 純 |
| | 北嶋 聡 | 鍛冶 利幸 | 西川 秋佳 |
| | 関 二郎 | 熊谷 嘉人 | 西川 秋佳 |
| | 久田 茂 | 苗代 一郎 | 西川 秋佳 |
| | 務台 衛 | 姫野誠一郎 | 広瀬 明彦 |
| | 和久井 信 | 横井 毅 | 吉田 緑 |
| 監事 | 落合 敏秋 | 佐神 文郎 | |

[学術年会長]

第43回 (2016年) 佐藤 雅彦
第44回 (2017年) 熊谷 嘉人

[委員会] (2014～2015年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

- 総務委員会
 - 北嶋 聡 (委員長)
 - 青木 豊彦 鍛冶 利幸 菅野 純
 - 熊谷 嘉人 眞鍋 淳 務台 衛
 - 菅野 純 (委員長)
 - 中村 和市 広瀬 明彦 (委員長)
 - 横井 毅 (委員長)
 - 小川久美子 佐藤恵一朗 津田 修治
 - 遠山 千春 (委員長)
 - 北嶋 聡 (委員非公開)
- ◆連携小委員会
- ◆評議員選考小委員会
- ◆名誉会員および功労会員選考委員会 (2015年度)
- 財務委員会
 - 青木 豊彦 (委員長)
 - 関 二郎 (委員長)
 - 鍛冶 利幸 (委員長)
 - 鍛冶 利幸 (委員長)
 - 永沼 章 (委員長)
 - 永沼 章 (委員長)
 - 鍛冶 利幸 堀井 郁夫 吉田 武美 (委員長)
 - 原 俊太郎 (副委員長以下非公開)
- 編集委員会
 - ◆JTS編集委員会
 - ◆FTS編集委員会
 - ◆Executive Editor 小委員会
- ◆田邊賞選考小委員会 (2015年度)
- 教育委員会
 - ◆生涯教育小委員会
- ◆基礎講習会小委員会
- ◆認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆学会賞等選考小委員会
 - ◆学会特別賞等選考小委員会
 - ◆技術賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆望月喜多司賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆日化協 LRI 賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆学術小委員会
- ◆広報小委員会
- ★その他関連の委員会
 - IUTOX President-elect 菅野 純
 - IUTOX 担当 広瀬 明彦
 - ASIATOX 担当 永沼 章

2016年4月1日 印刷

2016年4月1日 発行

発行人 眞鍋 淳

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161